

DATA FILE



正方晶系

名前	SCAPOLITE (スカポライト) / スカポライト
化学組成	$(\text{Na}, \text{Ca})_4\text{Al}_3(\text{Al}, \text{Si})_3\text{Si}_6\text{O}_{24}(\text{Cl}, \text{CO}_3, \text{SO}_4)$
色	黄色、青色、ピンク色、紫色、白色など
光沢	ガラス光沢
蛍光	黄色、オレンジ色 (一部)
条痕	白色
劈開	明瞭
断面	亜貝殻状
硬度	5.5
比重	2.6 ~ 2.7

スカポライト

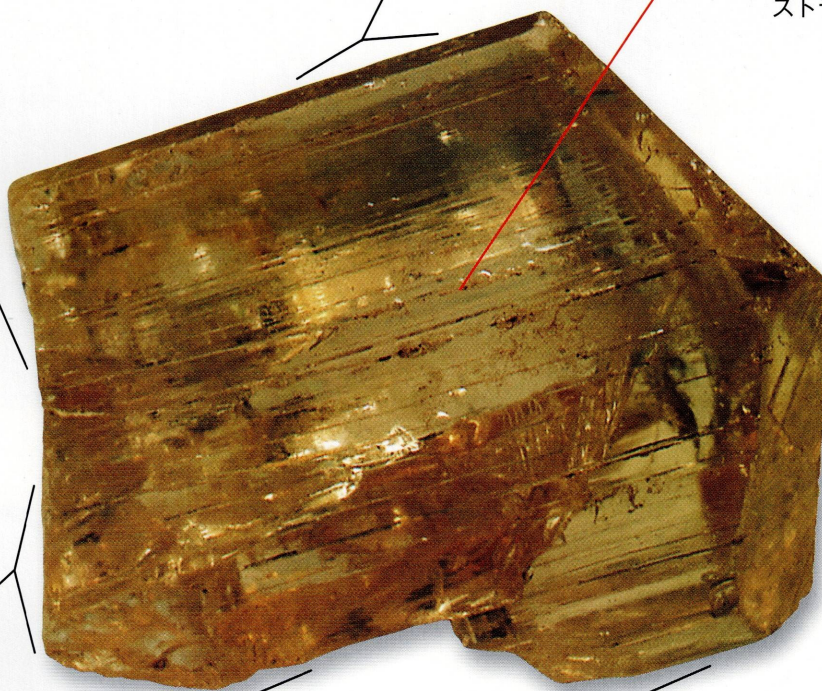
SCAPOLITE

ス

片麻岩や石灰岩が交代作用を受けたスカレン中に生成するほか、火成岩中にも見られる。

スカポライトの角柱状結晶。表面に条線が確認できる。オーストラリア産。

条線のはっきりあらわれた柱面を持つ角柱状結晶で産することが多いが、結晶形を示さない大きな塊になることもある。



紫外線を照射すると黄色やオレンジ色の蛍光を放つものがある。

素焼きの陶板にこすりつけると白色の条痕が残る。

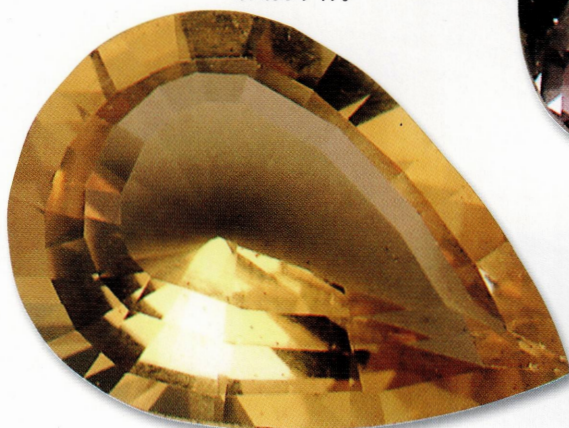
劈開は明瞭で、ハンマーでたたくと亜貝殻状の断口を示す。

柱石系の鉱物グループ

スカポライトは、一定した性質を持つひとつの鉱物としてではなく、柱石系鉱物のグループのひとつとして存在する。スカポライトグループの鉱物は、含まれる元素の割合が標本ごとに大きく異なり、結晶構造内でナトリウムとカルシウム、または塩素と炭酸基、硫酸基が互いに入れかわる一連の固溶体系列を成すのが特徴。この系列のなかでナトリウムを多く含むのが曹柱石で、カルシウムを最も多く含むのが灰柱石だ。スカポライトはやわらかいためアクセサリーに用いられることはないが、質の良いものは観賞用の宝石に加工されている。

▼▶ドロップ・カットの黄色いスカポライトと、オーバル・カットの紫色のスカポライト。

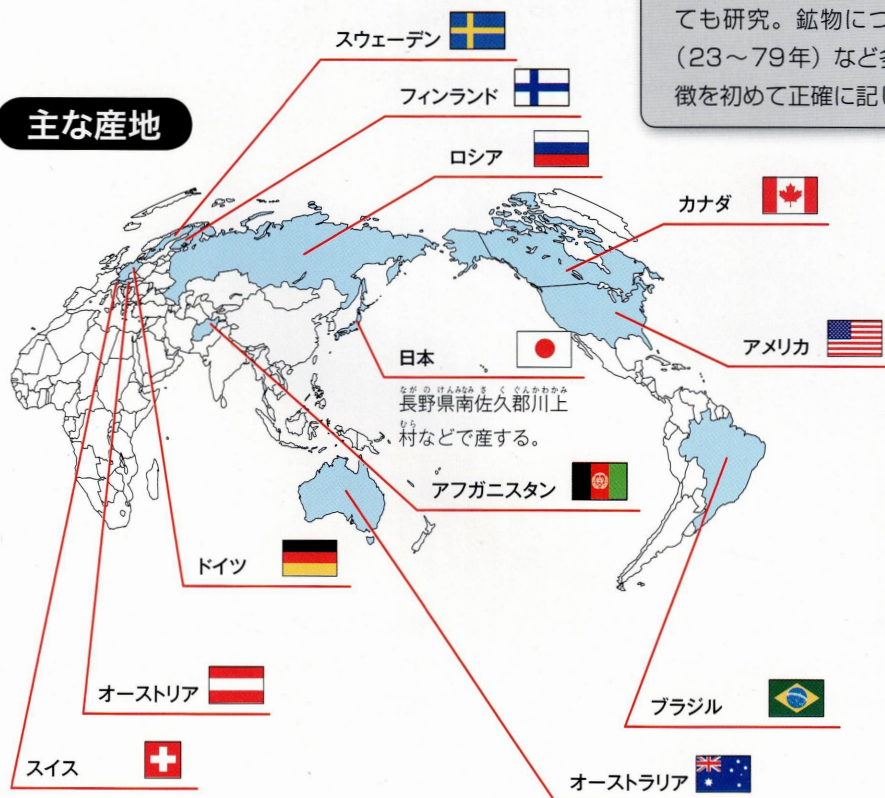
▼わずかに青みを帯びたスカポライト。



別名は「ウェルネライト」

ギリシャ語で「柱」または「軸」を意味する「スカポス」から名づけられたスカポライトは、ドイツの鉱物学者アブラハム・ゴットロープ・ウェルナー（1749～1817年）にちなんで「ウェルネライト」という別名で呼ばれることもある。ウェルナーは、1774年に『化石の外見的特徴について』という論文を書いた後、鉱物の形状についても研究。鉱物についての記述は、ローマの博物学者プリニウス（23～79年）など多くの研究者が残してきたが、鉱物の外見的特徴を初めて正確に記した人物はウェルナーであった。

主な産地



▼アフガニスタンで産出した紫色のスカポライト。

